

【社会系（地理歴史）カリキュラムデザイン論】 Ver 1.3 (2016.06.15)

1. ねらい

- (1) 社会系カリキュラムをめぐって議論されてきた論点・争点を知り，教科目標（主権者育成）の視点から自分なりに論評し，他者との対話を通して，自己の見解を再構築できる。
- (2) 社会系カリキュラムを説明する基本的な概念を知り，その意味やそれが提起された背景を分析できる。また概念を活用して，カリキュラムをデザインできる。

2. 授業計画

(1) 6月15日（水）

第1講 オリエンテーション

- ・本科目の目的は何か
- ・授業の進め方の説明とグループ編成（5名×7グループ）

(2) 6月22日（水）

第2講 論文購読：【意図されたカリキュラム】とは何か

森分孝治（1986）「『歴史』独立論の問題性－原理的考察－」『社会科教育論叢』34

- ・（4クレオパトラ）班の発表（20分）
- ・論文の中から「重要センテンス」を7つ選ぶ...共感，見解割れそう，納得できん
- ・「重要センテンス」について私の思いをつぶやく，いいねをつける＝壁書きツイッター
- ・ローテーションを繰り返し，最後は書き込み状況を皆で閲覧する

第3講 ワールドカフェ方式：「なぜ歴史を学ぶの」と尋ねられたら

- ・班で分担して意見を模造紙に書く...保護者から，県議会議員から，日本語を母語としない子どもから，歴史大嫌いな子どもから，企業経営者（マツダの社長），下宿の大家さん，地域の町内会長さんから
- ・司会者を除いて次のテーブルへ→ローテーション
- ・司会者が論点を紹介した後，意見交換。考えたことを文字やイラストを説明していく
- ・ローテーションを繰り返し，最後は司会者が論点を紹介する

(3) 6月29日（水）

第4講 論文購読：【意図されたカリキュラム】への代案（1）

藤瀬泰司（2015）「批判的教科書活用論に基づく中学校社会科授業開発(1)－「産業革命と欧米諸国」の場合－」熊本大学教育実践研究 32

- ・（5ごはんですよ）班の発表（20分）
- ・論文の中から「重要センテンス」を7つ選ぶ...共感，見解割れそう，納得できん
- ・「重要センテンス」について私の思いをつぶやく，いいねをつける＝壁書きツイッター
- ・ローテーションを繰り返し，最後は書き込み状況を皆で閲覧する

第5講 グループワーク：私だったら，教科書をこのように批判的に読み解く

- ・教科書を持参，歴史的分野または地理的分野で適当な見開きを決める

- ・藤瀬論文と同様の手法で授業プランを考える
- ・プランをパワーポイントに打ち込んで、発表する
- ・もっとも優れたプランを決める...理由を書いて投票

(4) 7月6日 (水)

第6講 論文購読：【意図されたカリキュラム】への代案 (2)

原田智仁 (1997) 「高校歴史単元開発の方法—理論の選択と組織を中心に—」 カリキュラム研究 6

- ・(3 初等+) 班の発表 (20分)
- ・論文の中から「重要センテンス」を7つ選ぶ...共感, 見解割れそう, 納得できん
- ・「重要センテンス」について私の思いをつぶやく, いいねをつける=壁書きツイッター
- ・ローテーションを繰り返し, 最後は書き込み状況を皆で閲覧する

第7講 グループワーク：私だったら, 教科書をこのように構造的に説明する

- ・教科書を持参, 歴史的分野または地理的分野で適当な小単元を決める
- ・原田論文と同様の手法で授業化を考える
- ・プランをパワーポイントに打ち込んで, 発表する
- ・もっとも優れたプランを決める...理由を書いて投票

(5) 7月13日 (水)

第8講 論文購読：【意図されたカリキュラム】への代案 (3)

渡部竜也 (2015) 「社会問題提起力育成のための授業構成の理論と方法 (1)」 東京学芸大学紀要.人文社会科学系. II 66

- ・(6 松岡フットボール研究室) 班の発表 (20分)
- ・論文の中から「重要センテンス」を7つ選ぶ...共感, 見解割れそう, 納得できん
- ・「重要センテンス」について私の思いをつぶやく, いいねをつける=壁書きツイッター
- ・ローテーションを繰り返し, 最後は書き込み状況を皆で閲覧する

第9講 グループワーク：私だったら, 教科書に内在する課題をこのように提起する

- ・教科書を持参, 歴史的分野または地理的分野で適当な主題を決める
- ・渡部論文と同様の手法で授業プランを考える
- ・プランをパワーポイントに打ち込んで, 発表する
- ・もっとも優れたプランを決める...理由を書いて投票

(6) 7月20日 (水)

第10講 論文購読：【実施されたカリキュラム】とは何か

草原和博ほか (2015) 「『社会科教師はどのようなカリキュラムデザインが可能か (2) —公民学習材の開発と活用の事例研究—』『学校教育実践学研究』第21巻

- ・(7 K4M1) 班の発表 (20分)
- ・論文の中から「重要センテンス」を7つ選ぶ...共感, 見解割れそう, 納得できん
- ・「重要センテンス」について私の思いをつぶやく, いいねをつける=壁書きツイッター
- ・ローテーションを繰り返し, 最後は書き込み状況を皆で閲覧する

第11講 グループワーク：私だったら、このような意思決定をする

- ・公民学習材を読む
- ・教師の置かれた状況をシミュレーションして、公民学習材の授業プランを考える
- ・プランをパワーポイントに打ち込んで、発表する
- ・論文で登場する教師らのプランとの異同をみつける

(7) 7月27日 (水)

第12講 論文購読：【達成されたカリキュラム】とは何か

南浦涼介 (2013)「子どもたちの社会科学習観形成のために教師は何ができるか：ある中学校教師とその卒業生からの探索的事例研究」『社会科研究』79

- ・(2SFS) 班の発表 (20分)
- ・論文の中から「重要センテンス」を7つ選ぶ...共感、見解割れそう、納得できん
- ・「重要センテンス」について私の思いをつぶやく、いいねをつける=壁書きツイッター
- ・ローテーションを繰り返し、最後はツイッターの書き込みを皆で閲覧する

第13講 グループワーク：私にもできること

- ・自分の被教育体験から分かる社会科学習の効果をリストアップする
- ・教師として、教育効果を高めるために自分のきそうなことをリストアップする
- ・どんな学力を育てたいのかを再考する
- ・私たちがしたいことを、パワーポイントに打ち込んで、発表する

(8) 8月3日 (水)

第14講 論文購読：カリキュラムを評価するために

藤瀬泰司 (2016)「子どもの授業評価を活用する授業理論検討方法の開発」第27回社会系教科教育学会発表資料

- ・(1 教社のネタについていけません) 班の発表 (20分)
- ・班ごとに藤瀬論文を参考にして、社会科の目標を子どもに考えさせる授業を構想する

第15講 グループワーク：教師だけでなく子どもも Aims Talk に参加するために

- ・プランをパワーポイントに打ち込んで、発表する
- ・もっとも優れたプランを決める...理由を書いて投票
- ・教師と子どもが「カリキュラム」を考えることの意味をめぐって、意見交換をする

3. 授業の形式・進め方

- ・本授業は、社会科教育学の代表的な論文と実践課題を取り上げ、カリキュラムデザインに係わる論点・争点を議論する「ケース・スタディー」に徹する。ケース・スタディーを通して、カリキュラムを「分析」する概念を習得するとともに、カリキュラムを自立的に「開発」し、「調整」していくための能力・態度を育成したい。
- ・購読論文は、ネット上で閲覧できる。事前の予習が欠かせない。重要箇所には赤線を引いておく、メモをつくるなど、自分なりの予習スタイルを確立すること。
- ・授業には、タブレット or ノートパソコンを持参して、論文を閲覧したり、入力作業ができるようにすること。論文は、プリントアウトして持参してもよい。

4. 成績評価の対象と方法

(1) 1 コマ：論文購読プレゼン：30点×1回=30点

- ・発表内容の論理性と根拠，ならびに受講者に対するメッセージの伝達度を評価します。
- ・パワーポイントで20分程度のプレゼンを行う。発表はグループ内で分担して行う。もちろん，一人を進行役等に指定するのは構わない。
- ・パワーポイントには，①論文の章立て，②論文が発している問いの構造，③答えの構造，④答えの根拠になっている事実・データなどを，筋道立てて分かりやすく構成すること。問いは明示されていないことがある。その場合は自分で推測すること。
- ・パワーポイントのデザインはビジュアル的に美しく仕上げる。とくに論文の構造と魅力を具体例を交えて表現すること。抽象に終始する発表は望ましくない。プレゼンは，班員や受講者やと問答をしたり，寸劇をしたり，活動を取り入れたり，動画をみせたり...とあらゆる工夫をすること。
- ・論文中の7つの「重要センテンス」は，必ずスライドの最後に明記しておく。
- ・提出の締め切りは発表前日の火曜日の17時。ファイルをEmail添付で草原に送る。

(2) 2 コマ：グループワーク：10点×7回=70点

- ・発表内容の独創性と実効性，ならびに自己の教育観の省察度を評価します。
- ・積極的に参画し，作品をグループで協働して仕上げることを期待します。
- ・作品づくりは，模造紙かパワーポイントで行います。論文購読のプレゼン同様に，見やすくアピール力のある作品を期待します。グループで分担して作製すること。

(3) 授業の性格上，理由なき欠席は認めない。

- ・3分の1以上欠席した場合は，特段の事情を除いて単位を認めない。
- ・9時以降に入室した場合は遅刻と見做します。遅刻2回で1回の欠席とカウントします。

(4) 課外：授業へのコミット

- ・Bb9の掲示板で「フォーラム」を立てたり，発言することを奨励します。社会科カリキュラムに関する重要な論点(疑問，見解，仮説…など)を提起したり，意見を述べたりして，議論や省察の活性化に貢献してください。
- ・2回以上の書き込みを義務とします。回数と質に応じて加点しますが，標準は1回1点。

5. 参考書と連絡先

(1) 必要な授業情報は，ホームページから入手できます

- ・ホームページは「草原研究室」で検索 <http://home.hiroshima-u.ac.jp/~kusahara/kusalab/>
- ・質問等があれば，メールでお尋ねください kusahara@hiroshima-u.ac.jp
- ・研究室を訪問するときは，アポを取り，教育学研究科 A404 研究室へお越してください。

(2) TAには，大坂(d145967@-----)さんが従事します

- ・論文購読やグループワークの支援，Bb9でのコメントやフォローをお願いしています。
- ・とくに論文理解やパワポの作成で悩んだ場合は，アポを取って，相談してください。
- ・普段はA411 院生研究室で研究されています。